



## 教育長再任のあいさつ

教育長 菊地 良夫

この度、町長の推薦を受け、議会の同意を得、教育長を再任いたしました。浅学菲才な私ではございますが、野木町民の皆様のご信頼と期待にお応えすることができるよう、これからも誠心誠意職務に精励してまいりますのでよろしくごお願い申し上げます。

さて、現在、グローバル化や高度情報化、少子高齢化など、社会が急激に変化し、今や Society 5.0 時代を迎えようとしている中において、教育を取り巻く環境は大きく変化しております。これに伴い多様化、複雑化する様々な課題に対して、教育委員会には適切な対応が求められており、また次代を担う人材の育成など、多くの期待も寄せられているものと私は認識しております。

このような様々な課題への対応に際し、「不易流行」という言葉がありますが、私は、教育にも時代が変わろうとも変わることのない「不易」なるものと社会の要請に柔軟に応じて適切に対応する「流行」なるものがあると考えております。

教育の本質は、それらを的確に見極め、普遍的なものを見失うことなく、計画的・継続的・持続的に当たることであり、この考えをもとに野木町ならではの教育を推進していくことが大切であると考えております。

現在、野木町では取り組むべき教育の構想を「教育大綱」としてまとめあげ「やさしさとやすらぎに満ちた明るいまち」をキャッチフレーズに、10の教育理念を掲げ、「第8次野木町総合計画」（キラリのぎプラン）に沿って、「みんなで育む、夢いっぱい明るい未来」を目指し、計画的に取り組んでいるところです。本年8月26日に掲載されたダイヤモンドオンライン及び中部圏社会経済研究所の試算によると、魅力ある市区町村ランキングで野木町は県内1位、特に教育部門で、全国15位、県内1位という高い評価を頂きました。

今後も、幼保小中が連携した地域とともにある学校づくりや虐待対応を含めた子ども子育て支援、様々な文化芸術活動の促進、健康タウンのぎ宣言にふさわしい生涯スポーツの推進、更には読書のまち宣言の主旨に沿った読書活動の推進などにじっくりと取り組んでまいりたいと考えております。

教育はもとより地味なものであって、奇をてらうものではございません。

教育は、人格の完成を目指すという目的のもと、次代を担う子どもたちに理想のともしびをともし続けることの営みであり、教育行政者はその営みを支援するものでなければならないと考えております。このことを心して私は今後も地に足をしっかりとおりし歩んでまいりたいと考えております。

今、野木町の抱える様々な教育的課題に対して、私は町民の皆様のお声に耳を傾けながら、真摯にこれからも取り組んでまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくごお願いいたします。

